

## 会員の皆様の近況報告

### ちさと会に出席して

二十四回生 奥田 陽一

一昨年に引き続き、平成二十四年六月八日千里阪急ホテルで開かれた「ちさと会」に出席致しました。

「ちさと会」の歴史についてについては09飯島泰蔵さん  
にいろいろ教えて頂きました。

### 飯島さんの思い出より

『「ちさと会」に出席されたそうですが、千里山の懐かしい皆さん方のお顔が目に見えちゃいました。嘗ての昔の記憶がフト頭を過ぎっているところですよ。』

岩橋千賀子さんは私と同期であるだけでなく、幼少期からの幼馴染みですので、長年折に触れては文通を欠かさないで来ました。従って「千里山会」を立ち上げましたときもその様子は夙に伝えてありました。平成9年所用で大阪へ参りました際、地元の武田卓さん、林慶夫さんを交えて、岩橋さんと夕食を共にしたことがありました。その席上で地元でも是非同窓会を立ち

上げられては如何かと言うことになり、これが切っ掛けになった模様でした。

翌平成10年7月3日、「千里第二小学校同窓有志懇談会」が江坂で開催され、30数名の参加者が有ったとのこと。平成11年10月2日にも同じ名称の懇談会が江坂で開催され、42名が集まったそうですが、これが機会に正規の同窓会を立ち上げることしようとの相談がまとまり、会の名前を「ちさと会」、世話人を武田卓、富田利和の両氏に定めたとお聞きしました。

平成12年10月7日、同窓会「ちさと会」が新発足（実質的には第3回目）し、52名の参加者がありました。その後は毎年秋に開催されて来た模様でしたが、纏て年を経る毎に次第にマンネリ化して集まりが悪くなり、沈滞化して行きました。

こうした事態を打開しようと、平成22年9月末頃、08武田卓、08富田利和、09岩橋千賀子、13小川雅子、15山本平八郎「数字は卒業回生」の諸氏が集まって協議を重ね、対策が立てられた模様です。その甲斐あつてか同年11月7日に開催され、実に230名の参加者が有ったとのことでした。その模様の詳細は会誌「千里山」14号に述べられています。』

小生も平成22年の総会に初参加致しましたが、昔の隣組のファーストネームでしか呼べない、年では前後六年以上中のある遊び仲間多数と再会することが出来、大感激致しました。

今年の「ちさと会」は一昨年より減りましたが180名の参加があり、仙寿の間全体をゆつたりと使い大盛会でした。毎年千里山から遠路「千里山会」総会に出席頂く方々に多数お目にかかりご挨拶しましたが、漏れがないか心配する次第です。東京からの参加者は14柿崎さん、15清水さん、22尾川原さん、29小田さんにお目にかかりました。

ちさと会は二部に分かれ

一部では座談会「昔の千里山、これからの千里山」を、司会進行15山本平八郎さん、パネリストに14柿崎眞吾さん、阿部弘さんと良くこれだけ集まったと思う写真をスライドで紹介しながら進められました。開発直後の千里山駅、千二小の古い写真多数（印象に強く残るのは戦後入学で跡しか知らない小生が初めて目にする奉安殿、鯉木が屋根に並ぶ神社のような造りでした）。

千里山の著名人の写真紹介（敬称略 木村久夫、保富庚午、林晴彦、美川英二、藤田田、南部敦子、東敦子など多数、全部の方を挙げきれません）。

当初の第一噴水（二重構造でしたが戦後すぐ外枠が壊され、水がなくなった部分は盆踊り会場や街頭テレビが置かれた広場に変身）。

お稻荷さんの下に有ったテニスコート（戦争中に畑になり近所の住民に開放、父が肥タゴを担いで耕しに行くのを手伝いました。壊れた金網の囲いと整備用ローラーがテニスコートの面影をとどめておりました）。

千二小の学級通信（昭和十二年四月創刊、第二号では09飯島さんのお習字が巻頭を飾っています）。

公団団地が完成した頃、これを機に千二小の生徒数が激増し新校舎の完成、千三小の新設につながります。

そして現在工事中の千里山駅周辺整備計画、オアシスの周辺が広い空き地となり交通広場に生まれ変わる、団地も次々に取り壊され民間マンションに、第二噴水からの下り坂から阪急電車の線路をまたぐ跨線橋は据付が終了、全体の完成は平成26年予定

08 富田利和さんの乾杯発声、舞台上部は26瀧梢さんの書



二部は親睦会

08 富田利和さんの元気な乾杯発声でピュツフェ方式の食事が始まり歓談に花が咲きました。21日羽勤さんが出演されたSwing Fellowsのバンド演奏を心ゆくまで楽しみました。

全員で「上を向いて歩こう」、「故郷」を斉唱、千里山会でおなじみの13小川雅子さんの中締め挨拶で名残を惜しみながらお開きとなりました。

ちさと会には29回、30回のように20人もの方々が出席する期もあり、今年も36回までしか声を掛けなかったとのことですが、それ以降の若手更に千三小卒業生に声を掛ければ300名位はすぐ参加されそうです。対応するための組織作りも進んでおり、千里山会としても今後必要に応じて連絡を取り相互に協力出来ればと願っております。